

いろいろなお話をしながら絵を描いたよ

対象：5歳児つばき組
製作日：2019年6月12日
製作者：池下桃代

保育のねらい・絵画製作を楽しみにし、思い思いの絵を製作する。



保育の振り返り

●つばき組では、トマトを育てるに当たって、井原さんの畑に行って土に実際に触れさせてもらったことから、絵を描き進めていきたいと考えていました。絵本「おおきなかぶ」を描く際、実際にトマトのプランターから土を少し借りて来て、子ども達の机の上に置いて、見るように伝えると、最初は「茶色やん！」と言っていました。保育者が「目を凝らして、細かな土の中まで見ると〜？」とクイズのように言ってみると、「あっ、ここに金色と銀色の石？がある？」や「絵の具セットの中にある茶色とトマトの土の色ってほんとに一緒なんかな？」など、一人一人の意見が違うことに、子ども達も保育者も気が付くことができました。(豊かな感性と表現・言葉による伝え合い)そして、いざ土を描き進めると、茶色の絵の具を取り出すのではなく、黒やオレンジ色に手が伸びている姿が見られました。そして、色の塗り方も「サラサラ」ではなく「トントン」「ドンドン」「ヌルヌル」などのオノマトペが、子ども達から自然に発言され、本物の土と出来るだけ、同じような質感の水の量を含ませた、筆の進め方をしていました。(思考力の芽生え)また、もうひとつ、つばき組では「どうぶつえん」の絵を描いています。このドキュメンテーションでは、写真にないのですが、そこにも、自分が行ったことのある動物園の地面の色に個性が光っている絵画があります。因みに「つばき組の横の道路と同じ色の地面ってなんて言うん？」と聞かれたので「コンクリートかな？」と伝えると道路を見ながら色を選ぶ姿もありました。ぜひ、絵画を見る際は遠くからではなく、近くで覗いて見てくださったら、新しい発見が生まれると思います。